

令和6年度 井野まちづくりセンターの主な取組

事業名

1 DAY いの留学 ～1日 井野でいっぱいあそぼう～

P

●事業実施に至った背景、目的

「野山嶽ひまわり園」は、令和5年度からまちづくり推進委員会 INO が管理事業を始め、井野地区の子ども達に参加してもらった。今年度は「ひまわりの種まき」を井野地区以外の子ども達にも声掛けし、井野でしかできない体験を通して井野の魅力を伝え、子どもや保護者が今後も「井野に行きたい！井野に行こう！」と感じる体験活動としての留学を企画した。

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

まちづくり推進委員会 INO 産業環境部会と、ひまわり園開園までの計画に合わせ日程調整を行い、いのっ子クラブ代表と事業内容を企画した。昼食作りと調理体験のボランティア依頼・調整や、星空観察会講師と内容の検討を重ねた。三隅・岡見小学校にチラシ配布。

D

●事業の概要

令和6年6月8日(日) いの留学 9:00～19:30

参加者 親子40人 ボランティア 16人 スタッフ 7人

1.野山嶽ひまわり園たねまき 2.野山嶽 山頂登山 3.昼食(ボランティアさん調理)
4.人権学習 DVD「やさしいオオカミ」鑑賞 5.まちセンかくれんぼ 6.調理体験(カレー作り)
7.雑巾がけ廊下50mレース 8.夕食 9.星空観察会、一日様々な体験を通して、井野のもの・こと・ひとと触れ合い、井野の魅力を存分に感じてもらうことが出来た。募集段階で井野地区の小学生が学校で友達を誘ってくれ参加者が早々に定員に達した。いのっ子は当日も率先して受付を担当し、自分達の住む井野を自信をもって案内し終始リードする姿が見られた。

C

●事業実施後の振り返り

- 井野の子ども達が「井野の良さを伝える」機会になった。
- アンケートに、また井野に来たい、いの留学に参加したい、との回答が多くあり、秋の「いの留学ミニ」開催につなげることができた。
- 今まで井野地区に関りが無かった親子参加があり、その後続けて「いの留学ミニ」「井野地区農業まつり」への参加につながった。
- 活動時間が長く、調理ボランティアの負担が多かった。企画段階からまちづくり推進委員会と調整し、委員からもスタッフを募ればよかった。

A

●令和7年度以降の方向性

- ・井野地区の18歳以下の人口比率は約 4.4%で小学生以下の子どもは10人程度という現状である。いの留学を通じ、子どもたちの姿は地域の大人に元気を与え、生活や活動の活力につながった。いの留学をシリーズ化し井野の魅力発信事業として継続し、関係人口増につなげ井野地区の持続に結びつける。
- ・いの留学ミニでは、井野室谷地区「棚田もりあげ隊」との交流が出来た。7年度は室谷地区とのタイアップ事業を深める。

